

新潟県

62年

公民館月報

6月
第412号

特集 公民館初任者講座3

一学級・講座開設の考え方とその手順(上)一



越後の郷土玩具(六)

山口土人形

土人形は、若干の例外を除いてそれが作られる部落の名前を冠せられるのが通例である。山口土人形は、水原町の山口部落の今井徳四郎の手によって作られている。一七〇年の伝統と六代目の白負が九十二歳の彼に今なおたゆまぬ精進を強いているかに見える。

この人形の特徴は、型のひだの柔らかさと淡い彩色とにあり温く上品な気品を漂わせている。彼の手柄によるものである。現在二十ほどの型を用いて、色々なものを作っているが彼の愛着するのは大神である。

愛好者間では、玉乗り馬・小町娘・馬乗り鎮台など垂涎おくあたわざるものがあるが入手し難いのは有名玩具の共通の悩み。しかし、以前は水原の市に並べられ、子どもの無事な成長を願って節句の飾りものとして容易く求められたものであろう。

二年前退職した伴伝三という良き後継者を得て心強い。同じ作者の手になる三角達磨やベタタはあまりに周知なので土人形を採りあげた次第。文中敬称略 (玩物居あるじ記)

研修専門委員会初会合

画期的な研修方法を構想

去る五月十九日、新潟市中央公民館会議室で、今年度特設された研修専門委員会が初会合を開いた。この会は、本会が主催事業として、今年度新規に実施する「公民館職員研修」の研修計画をたてるために開催されたものである。

なお、研修専門委員会は、このあとさらに一、二回の会合をもち、実施要項ができる予定。八月末ころには、開催案内を各公民館に送付し、九月末には受講者を募るようにしたいとしている。ちなみに、研修の日時会場は、12月3・4日の一泊二日の日程で、県立青少年研修センターで実施される。



あいさつする会長

研修専門委員

新潟大学教育学部教授	吉川 弘
新潟県教育委員会社会教育主事	鈴木 友夫
柏崎市中央公民館指導員	徳高 美江
燕市教育委員会社会教育係主任	磯部 紀友
出雲崎町教育委員会社会教育係主任	磯部 友記

初会合にもかかわらず、閉会直後から熱の入った意見が展開された。現時点では、構想の域を出ないものの、早くも画期的な方法が固まりつつある。本県公連ならではのユニークな研修方法が実現しそうである。その構想の概要を紹介しよう。

一泊二日の日程しかとり得ない事情の中で、どれだけ密度の濃い研修ができるかというところが問題の焦点となった。比較的经验年数の浅い職員を対象とする研修であるから、取りあげる必要のある内容としては、事業計画の立案、学級・講座等の学習プログラムの編成、基礎的法理論とともに、学習方法、討議法、レクリエーションなど、さらには、将来展望のための一般教養も欠かせない。これらの内容をいかにして効果的に研修でき、それが検討されている。

その結果生まれたのは、①受講者には、あらかじめ、自館の実践上の問題をレポートで提出する。②それを、指導講師陣で類型別にして、研修内容を焦点化する。③例えば、学級・講座のプログラミングを研修の核とし、講義と演習をミックスしながら進める。その過程で、バズセッション、フィルムフォラム等を取り入れるというように、ダイナミックなカリキュラム構想が検討されている。

新年度初回の会議に出席するため県庁舎に入る。エレベーターの昇降スピードは速く快適だが、ドアから出る時と方向を見定めてから会議室を探す。何時もながら、方向オンチには苦手な建物だ。

これをすすめるための条件整備・地域活動推進の三本柱である。県生涯教育推進会議でも、その推進は地域住民と直接かかわりの深い市町村が第一義的な役割を果すことが適当であり、公民館が学

学校及び公民館を含む社会教育施設のインテリジェント化の構想を積極的にすすめる。と述べている。

日新らしいが、消化しにくい横文字化は硬直気味の脳に入りにくい。(閑話休題)

会議日誌 (5月28日 土)

県社会教育委員会会議

習センターの拠点となるようにと基本構想の中で提唱している。

また、臨時教育審議会が第三次答申を四月に提出した。その第一章で生涯学習の基盤整備の必要性を強調し、

着任された林社教課長のごあいさつがあった。一日も早く県内の隅々まで知り、県民性や風土にもなじんでいただきたいと思いがたら傾聴した。

続いて、六十二年度県社会教育施策の説明があった。

ともあれ、公民館の充実と活性化は期待されている。

県教委は施策推進上の努力事項に、県と市町村の社会教育施策が有機的に関連し、県事業と連動する市町村事

業の開設を促進することをあげている。

県と協力し合うことは重要な事だ。が、社会教育は各自治体の固有事務であり、地域住民と共に独自性も求めねばならない。教育委員会相互の関係は、地教法第四十八条と関連するなどと、いらざる雑念が頭をよぎった。

会議は引きつづいて前回からの継続になる社会教育行政指標の検討に移ったが、数字の操作は難問山積で、再度小委員が検討することになった。

(会長 志水 亘記)

生涯教育の奨励・そ

県公民館大会レポート

着々と進む大会準備

来る7月22日、新津市民会館を会場に開催される第38回県公民館大会の開催準備が、主管の三市中蒲公民館連絡協議会によって着々と進められている。その最も特色とするところは「基調提案」の作成である。従来「基調講演」という形式は、

パネル登壇者決まる

理事者	鬼嶋 正之	紫雲寺町町長
学識者	若杉 正	新潟日報論説副委員長
利用者代表	春日 結子	長岡市中央公民館利用者
公民館員	小林 止秋	安塚町社教係主任
可会	狩谷 松雄	白根市中央公民館長

辛口

本年四月一日付をもつて県社会教育課長を拝命いたしました林でございます。さて、私は、このたび新潟県にお世話になるまで、過去三年余文部省において臨時教育審議会設置法案の国会提出から、今回の第三次答申に至るまでの

わゆる教育改革に関する仕事に携わって参りました。今次教育改革は、個性重視の原則と、生涯学習体系への移行を基本理念としています。が、本県においては既に生涯教育推進会議が

一言ごあいさつ

林 和 弘

昭和六十年三月に生涯教育推進基本構想を示し、モデル市町村を指定するなど臨教審が唱える「生涯学習を進める町づくり」構想を先取りする形で実践しております。

このような先進的な取り組みが進められている本県社会教育の展開に、私のこれまでの経験が多少なりともお役に立てば幸いです。特に、公民館の在り方については、市町村

における生涯学習のサービスセンターとして、情報化、国際化、成熟化等の社会の変化への対応等今後取り組まなければならない数多くの課題があり、前途多難の感がいたします。

第38回 新潟県公民館大会基調提案

生涯教育推進のための公民館の役割の中で、「地域に根ざした公民館のありかた」が、今日的に緊急かつ重要な課題といえよう。というのは、生涯教育の原点は生活にあり、生活の基盤は地域にあると考えるからである。

いま少し詳しく述べよう。わが国の経済の高度成長期には、ハード面の「地域づくり」が盛んであった。道路ができ、橋が架かり、経済面や生産性の面で目を見張る開発がなされた。その反面では、交通渋滞、大気汚染、自然破壊等等多数の問題を生じた。さらには、都市化の波の中で、生活は閉鎖的なマイホーム主義をほびこらせ、伝統や固有文化が省みられなくなるなど、ソフト面にも大きな変化をもたらした。

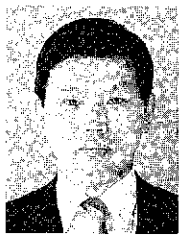
このため、近年多くの市町村では、地域の活性化の柱を、文化振興や生涯学習体制の整備などに重点を置いた地域づくり、つまり、ソフト面の「地域づくり」がすすめられている。この「地域づくり」の要諦は、地域に住む人々の“触れあい、助けあい、学びあい”によって、「地域の教育力」を高めることにあるといえよう。

この教育活動をすすめる中核的役割を担っている

のが公民館であることを認識し、公民館創設以来の実践に学び、いま再び原点にかえって、住民の期待に応えるよう活動の充実を図らねばならない。

公民館をめぐる問題

1. ややもすると、事業の多くの部分を趣味、教養、レクリエーションなどに偏して、いわゆるカルチャーセンター化してはいないか。必ずしも、このことを不可としないものの、それに終始することは問題であろう。
2. 公民館の施設がデラックス化するにともない、施設の維持管理におわれ、管理主義の傾向が強くなってはいないか。教育施設としての性格が薄らぐことは問題であろう。
3. 地区民の学習意欲の掘り起こしや、学習要求に応える活動を軽視してはいないか。予算の効率的活用の立場から、中央の公民館に事業を集中する傾向があれば問題であろう。
4. 公民館予算の削減、公民館職員の配置転換の短期間化により職員やる気を失う傾向はないか。また、専門性の希薄化などに問題がある。以上のとおり、本県公民館活動のより一層の活性化に資するため、基調となる課題を提起する。



任者講座 3

考え方とその手順(上)

実践を中心に



星野氏

執筆者紹介
十日町市博物館長
星野元一氏

昭和三十三年、十日町市の職員に採用以来の生え抜きの公民館人。途中昭和52年から60年まで、教育委員会社会教育主事、市立博物館副館長を歴任のあと公民館副館長の職にあった。伝統ある「十日町公民館」の歴史を築いた人の一人。
この春、博物館長に栄転された。

一、開設の前に

社会教育の実践には、いろいろな考え方や方法があります。これから述べることは、私のものでしかありません。みなさんは、みなさんの実践の中で体得してほしいと思います。

さて、スペースの関係上本論を急ぎます。公民館の事業の中心は、やはり、学級や講座です。継続性のある学習でないと、人間のエネルギーになりにくいからです。

では、何が学級で、何が講座かという問題がありますが、この定義は、現状はかなり曖昧です。国や県の補助金に左右されるところがあるからです。実践の現場で大切なのは、それに ついての議論よりも、「何を何のために開設するのか」という内容やねらいです。そして、「職員の内意(学習)」と「上司の理解」ではないかと思えます。「予算がとれたから……、補助金がついたから……」では、住民が迷惑します。また、とかく教を問題にしがちですがこれも運営上のブレイキになってしまいます。教育は百年の計といわれています。一年や二年で成果を云々するとしたら、どこかに嘘が入り込んでいると見た方がいいのではないかと思えます。職員は、

二、学習対象のとりえ方

対象を何処に求めるか、という問題は、つまるところ、住民の要求や、地域の状況で決めることです。国や県の方針だから、だけでは、地域や住民とかけ離れたものになりかねません。

いま、社会教育の中では、青年教育や成人男子の教育が問題になっています。地域の将来を担う者、地域の現在を動かしている者の教育が大切なことは言うまでもありません。また、生涯学習のかけ声もにぎやかです。だからといって、命も人もない現在の公民館体制の中で、しかも準備もなく取り組んでみたところで、失敗するのがおちです。実践の現場では、やれるところからやる以外にない、というのが答えです。

私の場合、婦人がかなり確かな対象として考えられました。理由は、①実際に参加者が多いこと、②社会がまだ男性中心で偏っていること、だから、③婦人の悩みや不満が多いこと、

などからです。そして、婦人教育によって女性を変え、女性が変わることによって男性を変え、子や家庭や地域を変える、という発想に立つわけです。そういう生涯学習観もあっていい筈だと思えます。いや、そういう方向でしか運営できないのが公民館の現状です。だから、あまり時流にまどわされずに、的を絞って、徹底して取り組むことをお勧めします。

三、学習課題を

どうとらえるか

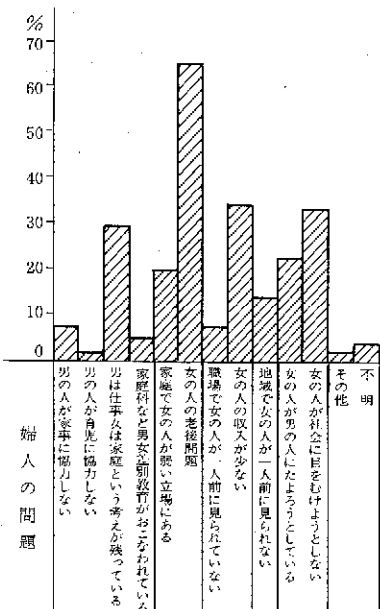
婦人の学習要求は、一般的には、料理とか手芸、お茶、お花、踊り、ダンスなどといった類のものが多く出がちです。だからといって、それをそっくり取り上げると、今はやりのカルチャーセンターなどと同じになって、公民館不用論がとび出して

きます。私は、そうした学習を否定はしませんが、それだけで良いとは思っていません。学習課題には、必要課題もあるのです。つまり、人間がよりよく生きられ、幸せになっていくために必要な、生活や地域の学習です。公民館の存在の意義は、そこにあります。

それらの課題は、市町村の統計資料とか、アンケート調査、文集、話し合い、などからとらえることができます。それを基に公民館運営審議会とか、実行委員会などで検討してみてもいい。学級や講座は、住民のためのものですから、職員の声だけで企画するのは危険です。

私は、アンケート調査をかなり実施してきました。調査には大がかりなものもありますが、無理をすると、やりっぱなしになって、活用までいかないこと

〔図1〕婦人の問題観



〔表1〕 婦人学級プログラム

回	学習主題	学習内容	使用映画	学習方法
主題 子育て後の生活設計を考える——三度の老いを生きるために 目標 ①老後に対する考え方を身につける ②自主的な学習態度を身につける ③仲間をつくる				
1	仲間づくりと学習計画	○映画、仲間づくり、学習計画	○考えていますか あなたの老後	映画(30分) 話し合い(12分)
2	老いた親とつきあう方法	○生きがいある役割分担 ○温かい保護の目、他	○親の扶養を 考える	映画(30分) 発表(30分)
3	親にとって、子 にとって、同居は 最善か	○同居がもたらす複雑な 人間かんけい ○同居を成功させる 対策と知恵、他	○親ばなれ 子ばなれ	
4	孤独なたたかい を救う敬老手帳	○敬老手帳はなぜ必要か ○女性へのしわよせを 解放するために	○天寿を まっとうせず (ビデオ)	
5	弱い老人を救う 福祉への提案	○地方自治体の 老人福祉の現実 ○寝たきり老人と 家族を救う道、他	○ボケない老後	話し合い(30分) 講義(60分)
6	二人で一人の老人 を養う時が やってくる	○高齢化を左右する 出生率 ○出生率低下の底に あるもの	○老年期を どう生きるか	
7	自分の老後と子 どもの教育との 綱引き	○子どもの教育より 自分の老後 ○子どもの教育に投資 し過ぎていないか	○お母さんの 自立宣言	映画(30分) 発表(30分) 作業(60分) 話し合い(30分)
8	充実した老いを 迎える知恵	○生きがいとほど近い パートの中身	○主婦が働きに 出るとき	
9	快適な老後のた めの生活設計	○公的年金で老後が 支えられるか ○個人年金を老後設 計に、他	○60、70花なら つばみ	映画(30分) 発表(30分) 作業(60分) 話し合い(30分)
10	私が運んだ 老後の設計図	○心の豊かさを 求めて ○老後の夢	○読むこと 書くこと 生きること	

公民館初

学級・講座開設の

—婦人学級の

になります。抵抗のない範囲でいろいろな機会にやってみることで。調査はその「数」だけを聴き取りにできませんが、話し合いとか、生活記録などと組み合わせると、傾向としては出てくるようです。前頁のグラフは当市の婦人たちの集会での調査結果で、婦人の問題観です。図1を見てください。

この中から、私たちは「老後問題」を取り上げました。高齢化社会は、女性に多くの問題を強いていきます。特に都市化や過疎かの進んだ地域ではなおさらで、その時になってからでは

遅いのです。だから、老後問題は、生活課題であり、必要課題の一つではないかとおもいます。

そこで、「老後問題」について学習する「婦人学級」の開設についての反応を調べてみると、約三人に一人が強い興味を示しました。また、半数が「気持ちはあるがわからない」人たちがしたから、公民館は、この人たちにどう働きかけるかが重要な仕事になってきます。

四、学習プログラムの編成

こうした実態と、その必要性

から、私たちはプログラムの編成にかかりました。おおよそ三年計画で、初年度(六十年度)は「おんなの歴史」(もろさわ・ようこ著)から始めました。「なぜ婦人問題か、なぜ老後問題か」を理解してもらうためには、まず、その歴史的事実から学んでもらう必要がある、と考えたからです。そして二年次には「老後問題」を、三年次にはさらに具体化して、四年日にはグループ化へ、と考えてみました。以下は二年次(六十一年度)の実践からです。

互いの知識や体験を交換することができ、思わぬ発見を生み、喜びになり人間関係を深めます。社会教育は、こうした相互学習の中に問題解決を見ようとしていくのです。

プログラム編成には、回数や曜日、時間の問題もあります。どんな良い内容でも、相手の都合を無視したのでは、参加することができません。

回数は、長すぎると双方とも息切れしてしまいます。こうして出来上がったのが、表1のプログラムです。

テキストには、「女は三度の老いを生きる」(高原須美子著)で、日次にそって組み立てました。テキストらしからぬテキスト、楽しく読める本、というのが私のテキスト観です。学習が苦痛であっては効果は上がりません。

それから、学級には、時間になっても人が集まらない、という問題があります。映画の利用はその調整でもあります。また、労働の後の夜の時間は、眠い時間です。そこで、少し細切れにりましたが、学習に変化をつけるために、映画、発表話し合い、講義というパターンで組み合わせました。

「話す」ことは、仲間づくりの基本で学級に欠かすことができません。発表や話し合いは、

「話す」ことは、仲間づくりの

「以下次号」

中之口村公民館

実践記録シリーズ

(19)

講師のつぶやき

講師が書いた実践記録

先月号に続いてまたまた講師が書いた実践記録である。学級や講座を開設するということは、何でもないように見えながら、公民館職員には職員として運営上の苦労があるように、講師には講師としての指導上の悩みがある。その点について、本井晴信氏(県立美術博物館学芸員)から随想ふうな軽いタッチで書いていただいた。

「古文書講座」

「サアアて困りましたね。ここは何と読んだらいいんでしょうかね。」

「先生、〇〇と読んだらなじらね。」

「いやいや、△△って読んだ方が意味が通るいや。」

春から秋にかけて毎月二回、中之口村農村改善センターの一室で行われている古文書講座のひとつです。文化財審議委員の勉強会に端を発し、公民館の事業

として開講されて四年。平日の午前中にもかかわらず、熱心な十数人が集って村内に残る古文書の解説に打ちこんでいます。郷土や先祖の歴史を知るよい手がかりとして、興味は人一倍あるのだけれど、なかなか読めない古文書。まずは一字でも二字でもくずし字の世界に慣れることから始めて、だんだん文章を解説するようにしています。能率よい近道はないのか、とよく聞かれますが、時間をかけてたくさん読んで、経験と勘を養うしかないようです。そして興味ある者同志集まって、皆で考えながら読んでゆくことが励みにもなるのです。

くずし字に取り組みながら郷土の歴史を読みとってゆく楽しさ。わかりにくい場所は皆で意見を出しあいながら考えていきます。また、独特の言葉遣いや地名や人名などについてはむしろ地元の方々の方が先生です。私はその点ずいぶん教わり

ました。

中之口村は人口六千人強の純農村地帯で、四百年以上の歴史を持つています。たまたま村内の親戚宅に古文書がたくさん残されていたことなどが縁で、講座の実現となりました。

「五〇年続けるすけ、頼むいね。」

「先生、皆して毎年留年するぞね。続けてくらっしえー。」

とはいうものの、心配な点もあるのです。テキストにする古文書の選定、ある程度読めるようになった人と全く初めての人が一室に居ること、などなど興味を伸ばしながらも思いつきや興味本位に陥らない持続の工夫は他ではどのようにされているのでしょうか。実践例を知りたいものです。

(本井晴信記)

おねがい

講師には講師の指導上の悩みがあるものと見える。それは、社会教育のベテラン指導者も同じもののようです。

本井氏のいうように、「他の人は、どのように指導しているのか」の情報を提供しあう場にしたいです。

公民館関係法令・解説

新任の公民館職員のみなさんにおすすめする必携の一冊!

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部 300円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 025(224)6073

公民館実践事例集

全公連 調査報告書を冊子に

全国公民館連合会では、かねてから調査委員会を設置して、公民館に関する調査をしてきたが、昭和六十一年度は「事業」に関しての調査をすすめ、このほど報告書を冊子にした。

まえがきによると、「公民館が地域に密着した事業や、住民のニーズに答える時代にそった事業を調査し、関係当局における公民館に対する認識・理解を求めるとともに、なお一層整備・充実・活性化をはかるための基本資料にする」ことをねらったものであるという。

昭和六十一年四月から十月までに新聞に掲載された事業のうちから抽出したものと、調査委員

員会が選定したのもあるという。掲載された事例は、四一館四三事業。(どうしたわけか本県からは一例も掲載されていない。)この四三事例を類型別に分類して紹介している。その類型化が興味深いので記しておく。①コミュニティ理解、②コミュニケーションづくり、③体験学習、④世代間交流、⑤ボランティアの育成、⑥国際理解、⑦生活課題、⑧職業教育、⑨家庭教育、⑩父親の

このたび柏崎原子力広報センターに勤務することになりました。

ここは、県と柏崎市他四町一村が委託する原子力の平和利用に関する普及啓発の事業を行うところで、昨年五月、全国十番目のセンターとして発足(中略)原子力発電の必要性や安全性に関するパネルや資料が揃っています。公民館活動の一環として研修視察には非お出ください……

情報広場



ために、⑩企業との連携、⑪スポーツ・レクリエーション、⑫文化・教養、⑬学社連携、⑭情報提供、学習相談。

会田俊夫氏からのたより (前柏崎市中央公民館事務長)

昨年の県公民館大会の際は、会場公民館の事務長として活躍なさった会田俊夫氏から便りがありました。

上川村公民館社教係主事 斉藤祐之氏 (28歳)

役場の企画の仕事に二年、公民館兼社教行政の仕事について四年になる斉藤さん。はち切れるような若さの持ち主。「公民館の仕事をしていると、住民の反応がジカに伝ってくるので楽しくてしょうがない。どんな夜遅くまで勤務しても辛いとは思わない」とおっしゃる。



一人で仕事をすると不安なことがある。それは何か？

素顔 拝見

中条町中央公民館社教主事 長野正夫氏 (41歳)

公民館勤務通算二四年の長野さんが三年前に町長部局へそして「今もどられて感じることは？」



この点が町長部局よりも多い。五年目を迎えた長野さんにとって公民館とはどんなところ？

「趣味活動が盛んだが、これからは実生活に役立つもの(マスメディア、パイオ、ハイテク)を企画しないと、館の存在感にかかわるのでは……」

「子どもから老人までの教育施設。ここでは学校のような先生はいないが、町民が先生となり、地域・年齢をこえて学ぶところ……かな」と太い眉を動かして、三年間のブランクのせいか少し出てきたお腹を押えながら答えてくれた。(聖籠町公民館主任 手嶋勇平記)

館報 雪国 (5月号) から (湯沢町公民館) すばらしい公民館の竣工おめでとうございます。



昭和六十二年度

県文化行政施策の概要

芸術文化活動の推進

1 参加活動

県民に創作活動発表の場と鑑賞の機会を提供し、芸術文化活動の推進と底辺の拡大を図る。

2 鑑賞活動

児童生徒を対象とし、鑑賞力の向上と豊かな情操のかん養を図り、一般には、芸術鑑賞の機会を提供する。

3 芸術文化団体の育成

芸術文化団体助成事業の継続実施と、本年度から活動を開始する高等学校文化連盟の育成に努める。

文化施設の整備充実

1 資料収集

県美術館博物館資料の整備に重点を置き、その特色を鮮明にするため、県出身作家の作品を収集し、所蔵品の充実を図る。

2 展示事業

県美術館博物館の開館二十周年を記念し「デザイン・亀倉雄作展」などの特別展を開催するとともに、所蔵品展、特別展を開催するなど鑑賞機会の充実を図る。

文化財の保護

1 文化財保護体制

文化財保護審議会、文化財保護指導委員会等を開催し、県市町村一体となった保護体制の強化に努める。

2 文化財の保存・活用

指定建造物の管理、修理、史跡の公有化、天然記念物の保護増殖、無形及び民俗文化財後継者養成事業等について助成する。

社会教育課関係事業(本庁)

社会同和教育指導者研修会

・期日 7月9日(木)・10日(金) 2日間
・会場 上越文化会館
・対象 教育委員会関係者、社会教育関係団体役員、民生・福祉関係者等 100人

少年団体リーダーのついで

・期日 7月28日(火) 30日(木) 2泊3日
・会場 県少年自然の家
・対象 市町村教委の推薦する

埋蔵文化財の保護については、遺跡詳細分布調査等により、その周知に努め、開発関連遺跡の事前調査や協議・調整によってその保護と適正な処理に努める。

3 文化財愛護思想の普及啓発
文化行政担当者研修会、文化財講座の開催や、保護強調週間防火デー等の実施により愛護思想の普及と高揚に努める。

図書推薦コーナー

「破帽と軍帽」

中島欣也著

本書は、かつて、弊衣破帽で若き日々を謳歌した旧制新潟高校生達と反発や軽侮の日で見られることの多かった高校の配属将校との終生つづいた心の交流の記録である。

「新潟民謡百選」

岩崎久太編

新潟県には、約三、五〇〇を超える民謡やわらべ唄があるとされている。
民謡は、郷土の庶民の間で自然発生し、その土地の生活からにじみだす喜怒哀楽がこめられており、最近、その保存性が話題になっている。

「早坂茂三の田中角栄回想録」

早坂茂三著

田中角栄は、かつて不世出の天才政治家と評され、多くの人に親しまれ、畏怖されてきた。しかし、ロッキード事件を境として、刑事被告人となり、陽だまりに憩う市井の病人となってしまった。でも、著者は、田中角栄は不滅であるという。

子ども会等少年団体の小学生(5・6年生)会員と引率指導者 180人
・申込み 各市町村教委へ、6月24日(水)までに
高校生ボランティアスクール
・期日 7月31日(金) 8月4日(火)
・会場 県立青少年研修センター
・対象 高校生 200人 詳細については市町村教委へ
・申込み 居住地の市町村教委へ、6月20日(土)までに

あとがき

「図書推薦コーナー」は毎回県立図書館の富田奉仕課長さんの筆によっています。今月号から、本県に関係ある図書(内容が著・作者)に絞って推薦することになりました。(上村)

(恒文社、B6判、二九八頁、62年4月刊行、一、八〇〇円)

(第一印刷所 B6判、一八五

62年5月刊行、一、三〇〇円)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局 長 上村 捨二郎
【定価1部 120円 千共・年極 1,440円】